

放課後等デイサービス支援員の実践力向上研修（基礎基本編）

～ 支援をデザインするとは？ ～

なないろ R5.10.11



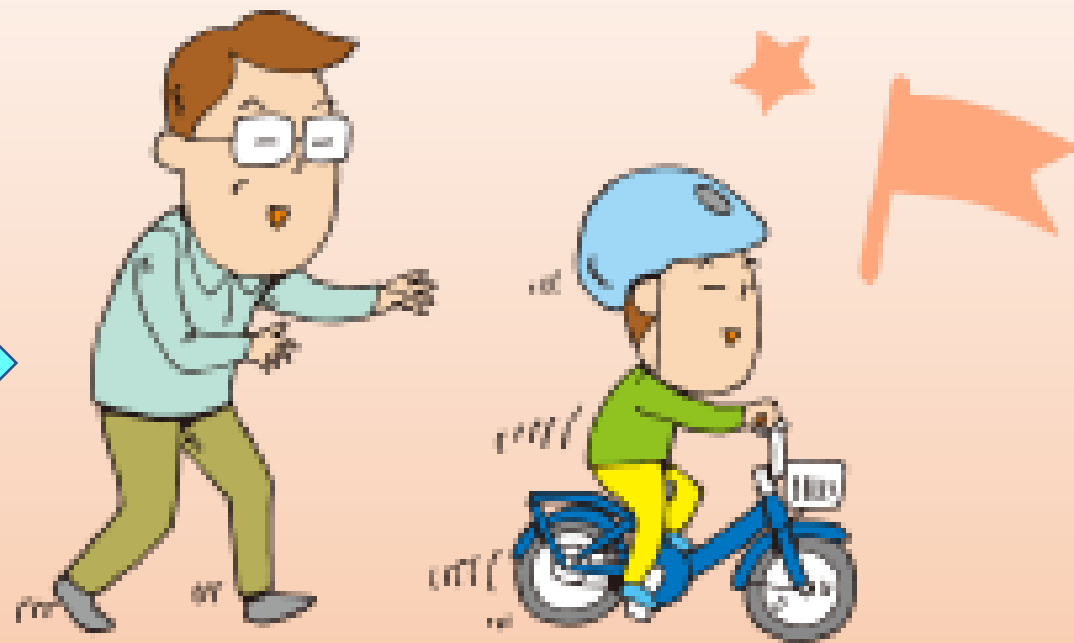
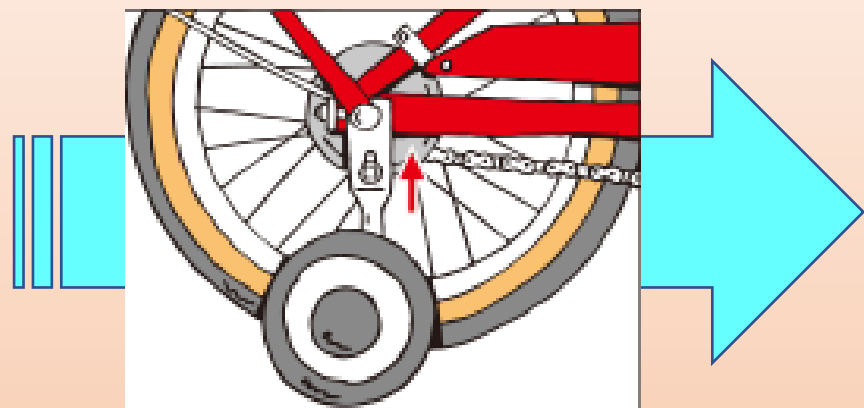
右のQRコードから
左のページの表示を
お願いします。



サンクスシェア
代表社員 相談支援専門員 田中 聡



私たちがおこなう支援とは…



支援 = 補助輪
つけ



補助輪
はずし



ひとりでできる

支援の量

支援を考える2つの理論

A (状況)



B (行動)



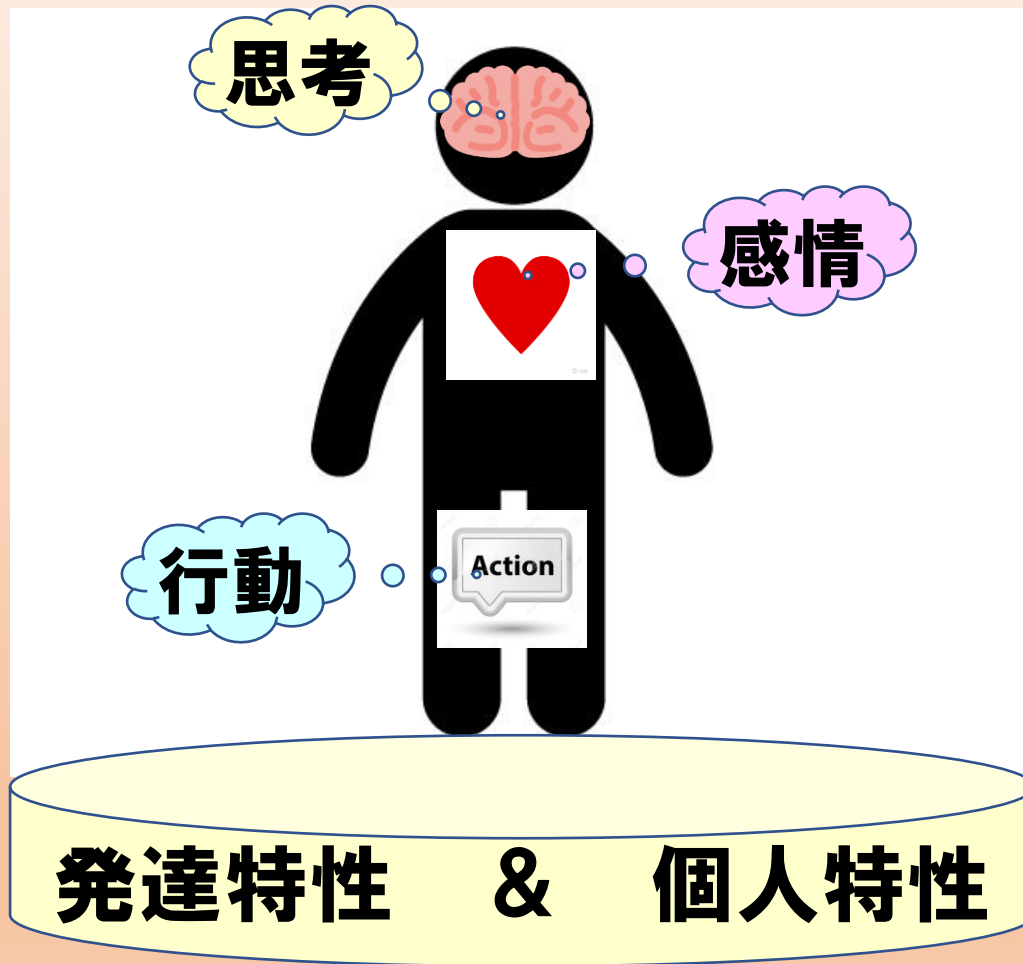
C (結果)

きっかけ
行動の目的
行動の機能

外的刺激

TEACCH

もの・ひと・こと



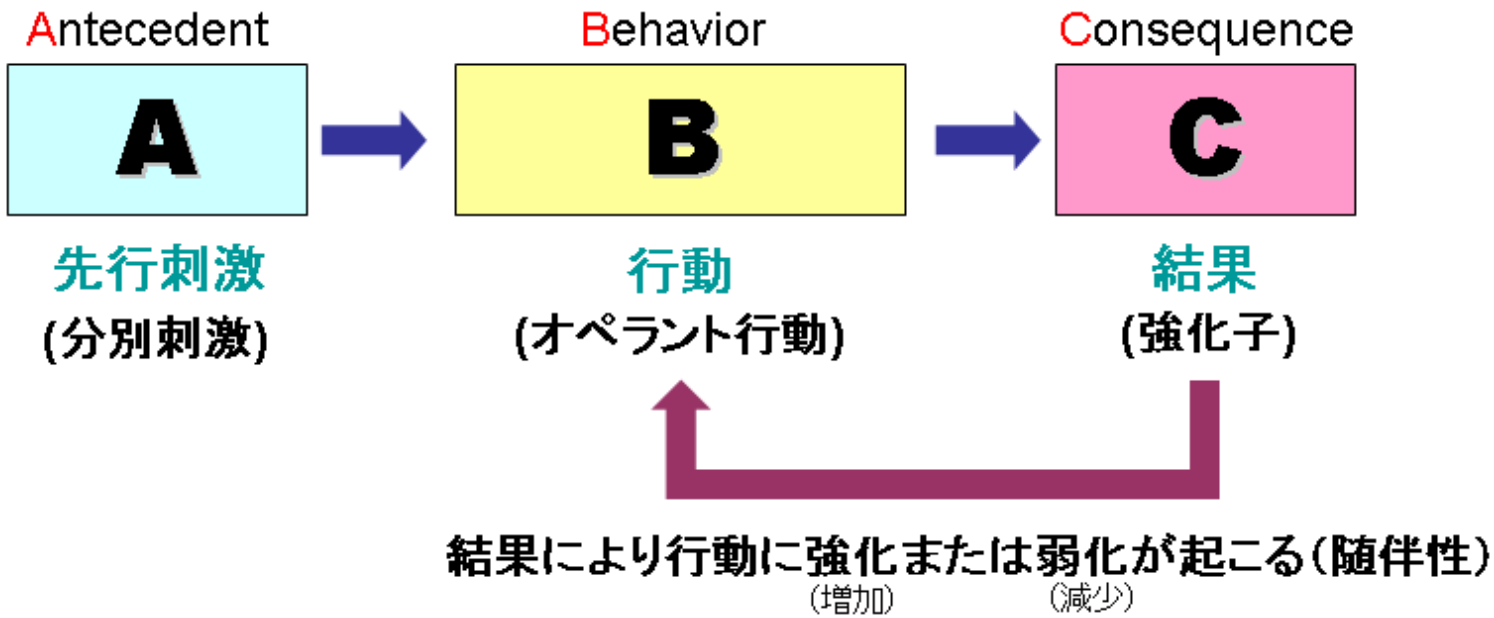
要求達成
心理的安定
心理的満足

内的刺激

ABA

強化子・意味づけ

三項随伴性 (ABC分析)



A

店でほしいものを見つける

B

「買って～」と大声で泣き叫ぶ

C

ほしいものが手に入る

強化

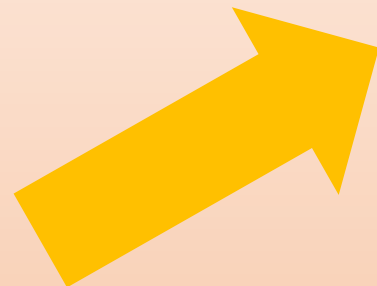
「支援デザイン」とは？



状況と時期の
適切な見立て

① 行動問題の発生
を防ぐ

- ・ 問題の分析
- ・ 問題を防ぐ環境設定
(もの・ひと・こと)



② 望ましい行動を
身に付けさせる

- ・ 環境設定をあえて緩める
- ・ 成功体験を積む

ステップ I

行動問題の発生を防ぐ



① 起きた行動問題の分析

【その行動のもつ意味 = 4つの機能】

機能	生じる結果	なくなる結果
注目	注目が少ない状況 →行動→周囲の注目	いやな注目 →行動→消去
活動 や物	物や活動が入手できない状況 →行動→入手できる。	いやな物や活動 →行動→消去
感覚 刺激	することがない状況 →行動→感覚刺激	いやな感覚刺激 →行動→消去
逃避	いやなことが目の前にある状況 →行動→やらずにすむ	

本人にとって、行動したことにより、どんな結果が得られ、
どんな機能があるかを適切に推測するのがプロとしての専門性

④ 起きた行動問題の分析

ABA理論の活用

A (状況)

店でほしいものをみつける



B (行動)

「買って～」と
大声で泣き叫ぶ



C (結果)

ほしいものが
手に入る

【3つのポイント】

レベルⅠ

『A』の状況をつくらない

レベルⅡ

『C』の結果を与えない

レベルⅢ

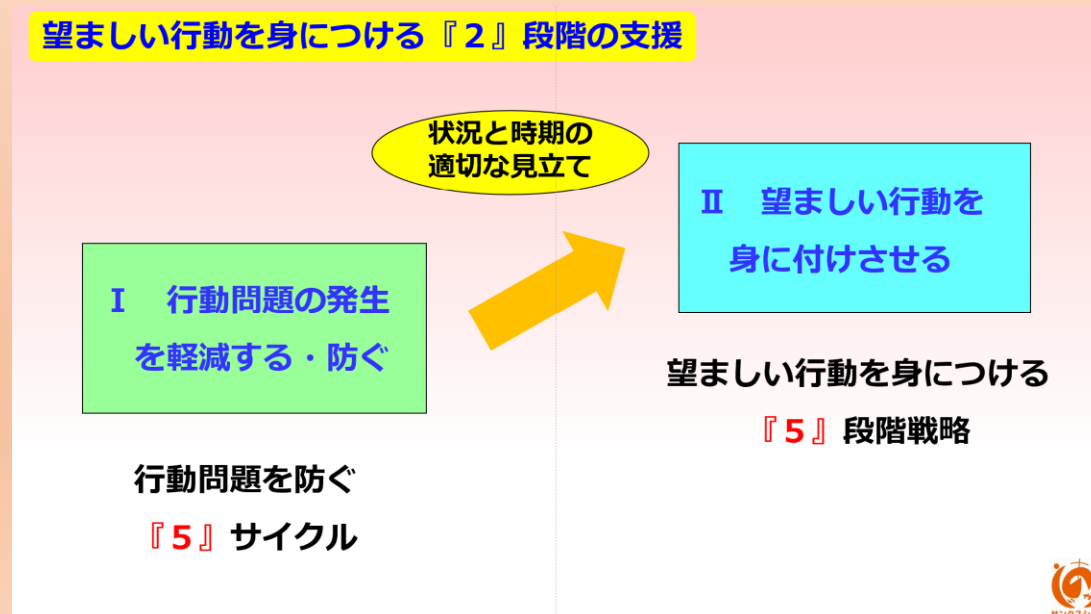
『B』の行動を変える

① 代わりの行動をつくる

② 望ましい行動をつくる

ステップ II

望ましい行動を身につけさせる



望ましい行動を身に付ける5段階戦略

- ① **不適切行動を『軽減』する・なくす**
 - ・ 不適切な行動の頻度を下げる（＝強化しない）
- ② **望ましい行動を新たに『獲得』させる**
 - ・ これまで持っていなかった行動を出現させ強化する
- ③ **獲得した行動を『維持』させる**
 - ・ 一度獲得した行動が弱化・消去されないよう維持する
- ④ **獲得した行動を『般化』させる**
 - ・ ある限定場面だけで行動が起きるのではなく、他の別の場面でも行動が起きるようにする
- ⑤ **獲得した行動の『自立』度を高める**
 - ・ 他者の依存ではなく自分の力で行動する部分を増やす

【好子の種類】

- I 生得性好子（無条件）・・・生命維持に関する基本的欲求を充足
食べ物、飲み物、におい、味、睡眠、性的刺激 等
- II 習得性好子（条件性）・・・ごほうびであることを後の学習で身に付けた
タブレットでゲーム、お出かけ、買物、言語的賞賛 等
- III 般性好子・・・この強化子が別の強化子を得るために使用される
お金、ごほうびシール等
- IV 社会的好子・・・人とのかわりが強化子として機能した場合

プリマック
の原理 (低→高)

好子の量は少ない方がよい（飽和・遮断）

望ましい行動を身に付けさせる

ティーチングスキル（指導内容の要素分析）

「自然観察」 × → 「仮説検証観察」 ○

自然観察

仮説検証観察